

北海道立衛生学院

赤川 裕之*

I. 学院の概要

1. 設立

当学院は、医療技術者の総合養成センターとして、昭和 36 年、北海道立衛生研究所との合同庁舎として新築され、設立されました。

設置学科は、臨床検査学科の他、看護学科、地域看護学科(旧：保健婦科)、助産学科、歯科衛生学科、通信制看護学科の計 6 科です。

校舎は、札幌市のほぼ中心部、中央区南 2 条西 15 丁目にあり、本校舎外観は開学当時から変わらず、毎年春には、電車通りを挟んだ向いの小学校から運動会の練習が大音響で飛び込んできます。

臨床検査学科は、昭和 36 年、北海道札幌後保

護指導所に開設された北海道立衛生検査技師養成所(修業年限 2 年、養成定員 10 名)が前身であり、翌 37 年に衛生検査技師科(修業年限 2 年、養成定員 20 名)として、学院に設置されました。

昭和 46 年には学科名を臨床検査技師科、修業年限を 3 年に、平成 14 年には学科名を臨床検査学科にそれぞれ改め、現在に至っています。

学生は、全道各地から集まってきましたが、希に東北や関東圏等から入学する学生がいます。学生の修学を支援するために寄宿舎(女子寮：いずみ寮、有峰寮)が設置されていましたが、入寮者数の減少、経費等の問題で平成 17 年度末に廃止されました。



写真 校舎外観

* hiroyuki.akagawa@pref.hokkaido.lg.jp

2. 使命

北海道立衛生学院臨床検査学科は、臨床検査技師等に関する法律(昭和33年法律第76号)に基づき、臨床検査技師として必要な専門的知識及び技能を習得させるとともに、その徳性を養うことを目的とし、医療及び公衆衛生の普及向上に寄与することを使命としています。

特に、当科では、多様化する保健医療の進展や地域住民のニーズに対応し、社会の要請に応える豊かな人間性と基本的技術をもち、臨床及び公衆衛生・その他の関連分野を分担できる能力のある臨床検査技師の育成を目指しています。このため次のとおり教育目標を定め、学生の教育支援にあたっているところです。

- 1 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を養う。
- 2 臨床検査に関する基礎的及び専門的知識を学び、その知識を活用して科学的に自ら解決する能力を養う。
- 3 新たな課題や社会環境の変化に対応できるよう、自主的に学び続ける姿勢を養う。
- 4 保健医療チーム及び公衆衛生・その他の関連分野の中で自己の役割を自覚させ、その一人としての責任感と協調性を養う。

II. 教育課程の概要

当科教育課程は、「基礎分野」(13科目、22単位)、「専門基礎分野」(20科目22単位)、「専門分野」(34科目、60単位)で構成されています。

1年次は、基礎分野、専門基礎分野の履修が中心となり、基礎学力の充実を目指します。前半は講義が主体となりますが、徐々に学内での実習が増え、各検査の基本的な知識、基本操作を習得します。

2年次は、専門分野(講義・実習)の履修が中心で、臨床検査の理論と基礎技術を習得し、疾患と検査の関係を学びます。この時期、毎週のように学内実習が続き、実習レポート提出のため、夜遅くまで図書室・閲覧室を使用する学生の姿が見られるようになります。校舎は冬期間、暖房は入りませんが、設備が古いために温度の微調整が効かず、

電気ストーブを設置して対応しています。

3年次では、専門分野の履修のほか、学外授業として医療機関における「臨地実習」を行い、医療の中での臨床検査の理解を深めます。実習は3施設に協力いただき、2週1クールとして7クール、それぞれの分野を1~2名で廻っています。6月から10月(夏季休暇を挟む)に実施しているこの実習では、学生に多くのことを学ばせていただいております。

また、産業保健学習の一環として事業所に勤務する者を対象とする「集団健診実習」を実施し、この実習を通じて健診業務の受付・尿検査・血圧測定・採血・心電図検査・総合判定の一連の流れを理解するとともに被検者への接遇及び検査技術等を習得します。更に、平成14年度からは、道内5ヶ所の保健所に協力いただき「保健所実習」を実施しています。1週間という短い期間ではありますが、保健衛生行政に触れる良い機会であると思います。

当科の大きな特徴である「卒業研究演習」では、より一層の視野の拡大を目指して、医療・公衆衛生に関する調査研究を行い、論文の読み方、実習計画の立て方、実習のすすめ方、抄録のまとめ方、口頭発表の仕方等の基本を習得しています。

先の臨地実習の後直ぐに実施し、12月に発表会を開催していますが、後の学会発表等に繋がる貴重な体験をさせていただいています。

III. 学内行事

衛生学院には、「校友会」という学生自治組織があります。過去には、サークル活動も行われており、他学科の学生との交流、親睦の場が数多くありました。

現在は、4月一新入生歓迎会、6月一スポーツ大会、10月一学院祭とそれぞれの行事の中でクラス内、また学院内での交流を図っています。特に、学院祭では、模擬店の他、研究発表を行い、各学科の修学内容に触れる機会があります。

臨床検査学科では、耳朶採血による血液検査、呼吸機能検査、各種標本の閲覧等、その年度により、趣向を凝らした取り組みがなされてきました。

IV. 閉科、閉院について

当院は、これまで、多くの保健医療技術者を養成し、本道の保健医療福祉サービスに貢献してきましたが、設置者である道は、平成 18 年 2 月に策定された「民間開放推進計画」を基に、当院を廃止する方向で見直しを進めてきました。

その結果、臨床検査学科は平成 22 年度の学生募集を停止、平成 23 年度卒業の学生を送り出した後、閉科する予定です。

学院では、既に、地域看護学科、歯科衛生学科が平成 22 年度で閉科し、残存する学科も順次閉

科、平成 24 年度(平成 25 年 3 月末)で完全に廃止予定となっています。

学生の教育支援について、多くの御協力、御支援、御教示をいただきました先生方に、この場をお借りして、お礼申し上げます。

平成 24 年 3 月、最後の学生 20 名が卒業する予定ですが、すべての学生が国家試験に合格し、就職できるよう取り組んでいます。学科は閉科となりますが、皆様から当科卒業生に対して、引き続き御指導・御鞭撻をいただきますよう宜しくお願い致します。